

琉球・沖縄  
年中行事  
Q&A

納骨のしきたりについて



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職  
帰依 龍照(きえりゅうしょう)



将来、子どもたちが  
困らないようにと、

母の納骨の際、お墓の内  
部を撮影しました。その  
写真を見た友人から、「亡  
くなったばかりのお母さ  
んを、三十三回忌が終わっ  
たお父さんの隣に置くの  
は間違っている。両親と  
も、成仏できていない」と  
厳しく批判されました。

今さら、お墓を開けるわ  
けにもいかず、とても困っ  
ています。

(千葉県在住・中城村出身のMさん)



最近、同じような質  
問をよく受けます。

子どもたちのことを思って  
撮影されたのでしょうが、  
ひよんなことからトラブル  
の原因になることが多いよ  
うですね。

Mさんがおっしゃるよう  
に、沖縄では、墓地へひん  
ばんに行くものではないと  
いう慣習があり(注1)、納  
骨以外にお墓を開けること  
は、ほぼ不可能だと考えら  
れています。しかし例外も  
あるので(注2)、これらの  
機会を利用してお墓を開け  
骨壺を置き直すこと(骨身  
案内「フニシンヌ ウンチ  
ケー」ができるので、ご安  
心くださいね。

伝統を学びつつ  
生前の思いを尊重する

さて、友人のご指摘につ  
いてですが、おそらく、亡

くなったばかりのお母さま  
のご遺骨には、「御門番(ウ  
ジョーバン)」という見張り役  
をやらせなさいというアド  
バイスなのでしょう。

沖縄のお墓では、亡くな  
ってすぐの方のご遺骨は、  
お墓の入り口に近い場所に  
設けられている「汁減らし  
(シルヒラシ)」というところ  
に安置され、お墓の門番の  
役割を担うという伝統的な  
考え方があります。なので、  
ご友人の意見にも一理ある  
というわけです。

一方で、夫婦ともに三十  
三回忌(終焼香「ウワイスー  
コー」を経過したことを条件  
に、夫婦の遺骨を一つの骨  
壺に入れたり(夫婦合葬)、  
骨壺同士を隣り合わせにす  
る(仮夫婦合葬)という慣  
習もありました。しかし戦  
後、儀式・法要の簡素化や、  
生活改善を奨励してきた沖  
縄では、夫婦合葬の条件を  
満たそうと  
すると、最  
長の場合60  
年以上もか  
かることか  
ら、夫婦い  
ずれかが三  
十三回忌を  
経過すれば  
よいという  
考え方に変  
わってきました。

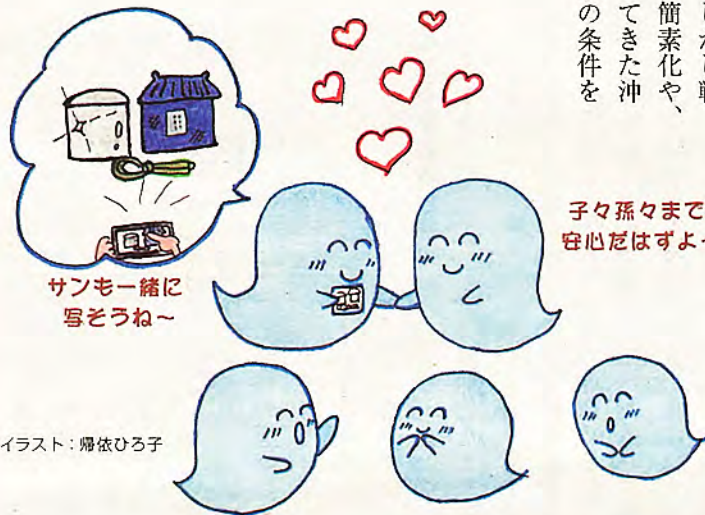
最近では

三十三回忌を待たず、一周  
忌や三回忌を過ぎれば夫婦  
合葬が可能とされるケース  
が増えているのも事実です  
(お葬式の直後に合葬され  
る地域や家庭もあるよう  
です)。

慣習にならってお母さま  
のご遺骨を「御門番」とす  
ることも大切ですが、お母  
さまの生前の思いを一番よ  
く知る喪主・遺族の方が、  
「最愛のお父さんの隣に置  
いてあげたい」という考え  
方で円満に一致したのなら  
ば、これがお母さまへの一  
番のご供養になるのではな  
いでしょうか。

Mさん、お墓の内部の写  
真は、あくまで喪主・遺族

子々孫々まで  
安心だはずよ~



イラスト：帰依ひろ子

注1 <お墓に向向く行事>

- 旧暦三月(新暦四月)「清明祭(ウシーミー)」=沖縄の年中行事
- 旧暦七月七日「七夕(しちせき・たなばた)」=お墓の清掃をする日
- 納骨されている故人への「法事(ウスーコー)」=沖縄の年忌法事(ニンチヌーコー)

注2 <お墓に向向いてもよいとされている日・期間>

- 閏月(ユンアチ)=旧暦で、1年が13カ月となる期間
- 旧暦七月七日「七夕(しちせき・たなばた)」=ヒーナシ・タナバタ(お日柄を選ばない日)といわれ、この日だけは吉凶なしとされている

<お墓を開けてもよいとされる行事>

- 夫婦合葬(ミートウンダー)=別々に取られていた夫婦の遺骨を、同じ骨壺に収めること。「後生結婚(グソウヌービチ)」ともいう
- 洗骨(センコツ)=火葬が普及する前の時代の改葬儀礼。墓に安置した柩(ひつぎ)の遺体の骨を洗い清め骨壺に収める慣習。一般的に旧暦七月七日に行われていた

帰依 龍照 1968年岡山県出身(満47歳) / 学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒 / 専門分野:哲学(宗教哲学) / 沖縄県内で年間多数の住宅起工式(地鎮祭)を担当する / 最近、小学校から大学まで、いじめや不登校・進学・就職を中心とする講演会に多数お招きいただいています。住職(昔の和尚「おしょうさん」)を長男に継承し、前住職(ぜんじゅうしやく)となりました。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。